

授業科目	基礎教養入門		授業形態	講義	単位数	2	単位		
担当者	高橋寛、渡邊洋一、荒木隆俊、高桑秀郎、松田水月、花田嘉雄、柏倉弘和、小森谷一朗、木村重子								
ナンバリング	E11L101	開講時期	1年次前期	授業時間数	30	時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			一部該当*		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。								
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。								
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。								
授業の概要・方法	担当教員が5つのカテゴリーに分かれ講義やグループディスカッションを通して、本学での2年間の学習で、これまでの自分の考えをどう組み替えるかなどを考えるきっかけとする。また、本学入学までに学修内容を、それぞれの学生が振り返り、この授業を通じて不足している学修を把握し、補い学修の伸長を進められるきっかけとする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 「学ぶとは」「教養とは」「専門職とは」「プロ意識とは」「社会活動から学ぶ」の5つのカテゴリーに分けた講義を受講し、人間性ばかりでなく専門職としての能力を育てるために、これまでの認識を新たな合理的な認識に組み替えるとともに、知情意のバランスが取れた能力の確立ができるきっかけとする。 「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」を身に付ける。 								
授業計画	第1回	テーマ	「学ぶとは」：本学での学びー建学の精神ー (担当 渡邊)						
		内容	建学の精神の具体的な意味を、他大学等との比較を通して考える。						
		授業時間外学修	予習： ホームページやガイドブックなどで、本学園の概要を把握する。 復習： 学生便覧の最初のページ、建学の精神や三つのポリシーをていねいに読む。						
	第2回	テーマ	「学ぶとは」：高校までと大学の学習の違い (担当 渡邊)						
		内容	作文とレポート・論文、講義と演習・実習の違いは何か、具体例を通して学ぶ。						
		授業時間外学修	予習： 児童・生徒・学生の意味を調べておく。 復習： 授業で学んだことを踏まえて、シラバスをていねいに読んでみる。						
	第3回	テーマ	「学ぶとは」：どんな知識の持ち方が良いか (担当 渡邊)						
		内容	自分(の将来)と仕事を軸として互いに関連づけられた知識の体系を作る。						
		授業時間外学修	予習： 保育園と幼稚園の違いについて調べておく。 復習： 授業中に紹介した学校教育法や児童福祉法の一部をていねいに読む。						
	第4回	テーマ	「プロ意識とは」：素人とプロの違いとは (担当 高桑)						
		内容	結果を残すことを求められるスポーツ選手を例えに専門職に就くということを考える。						
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読しておく。 復習： 配布された資料を元に自分のこれまでの生活を振り返る。						
第	テーマ	「プロ意識とは」：プロから見た世界とは (担当 高桑)							

5 回	内 容	スポーツのトレーニング理論に基づいて、今後の学生生活の展望を考える
	授業時間外 学修	予習： 前回配布の資料を熟読しておく。 復習： 2年間の学生生活で具体的に何をしていくか考え、行動に移していく。
第 6 回	テーマ	「社会生活から学ぶ」ボランティアから学ぶ能力 (担当 花田)
	内 容	ボランティアから学ぶ能力と羽陽短大生にとって身近なボランティア活動について考える。
第 7 回	授業時間外 学修	予習： 自身のボランティア経験について振り返る。 復習： 簡易レポートをまとめて提出する。
	テーマ	「社会生活から学ぶ」舞台活動の事例から、人生の歩き方を考える (担当 高橋) *
第 8 回	内 容	教員の豊富な舞台活動経験の事例に触れることによって、将来の保育士として必要な精神のあり方との共通点に気付く。
	授業時間外 学修	予習： 保育士としてのあり方をまとめる。 復習： 授業時に説明する。
第 9 回	テーマ	「教養とは」：なぜ教養が必要か (担当 柏倉) *
	内 容	日常的な複数の視点から、教養について考える。
第 10 回	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業時に説明する。
	テーマ	「教養とは」：教養で何が育てられるか (担当 木村) *
第 11 回	内 容	教養が生活にどのような影響を与えるのか、身近な例をもとにして学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 第4回授業終了時に説明する。 復習： 授業時に説明する。
第 12 回	テーマ	「専門職とは」：幼児教育者の醍醐味とは (担当 小森谷) *
	内 容	保育場面の具体例を踏まえ、幼児教育における幼児教育者の役割とやりがいについて考える。
第 13 回	授業時間外 学修	予習： 自分が幼少期に体験した保育施設における生活を振り返り、楽しさを感じた活動と楽しさを感じた理由についてまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	「専門職とは」：幼児教育者の能力と育て方 (担当 小森谷) *
第 14 回	内 容	幼児教育者に求められる能力と、そのような能力の育み方について、グループディスカッションを通して考える。
	授業時間外 学修	予習： 幼稚園見学の際の保育場面を振り返り、幼稚園教諭の幼児への関わり方で印象に残っていることをまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 15 回	テーマ	「専門職とは」：介護とは① (担当 荒木・松田) *
	内 容	介護現場の現状理解。
第 16 回	授業時間外 学修	予習： 事前に、介護のイメージ、介護現場のイメージを整理しておく。 復習： この学びと、幼児教育の視点について整理する。
	テーマ	「専門職とは」：介護とは② (担当 荒木・松田) *
第 17 回	内 容	介護対象者の理解。

	回	授業時間外 学修	予習： 事前に、介護のイメージ、介護現場のイメージを整理しておく。 復習： この学びと、幼児教育の視点について整理する。
	第 14 回	テーマ	「専門職とは」：介護と保育① (担当 荒木・松田) *
		内容	幼児教育と介護福祉との支援の接点を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 事前に、介護のイメージ、介護現場のイメージを整理しておく。 復習： この学びと、幼児教育の視点について整理する。
	第 15 回	テーマ	「専門職とは」：介護と保育② (担当 荒木・松田) *
		内容	自己の適正能力を探る。
		授業時間外 学修	予習： 事前に、介護のイメージ、介護現場のイメージを整理しておく。 復習： この学びと、幼児教育の視点について整理する。
	第16回	まとめ (担当 高橋)	
教科書・テキスト	使用しない。		
参考書・参考資料等	参考文献は各担当者が説明する。		
成績評価の 方法・基準	各授業担当者のレポートにより、各領域理解の程度 (60%)、「自分で考え、実践できる能力」(3)の獲得の程度 (30%)、授業参加度 (10%) で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業時に提出されたレポートは、各担当者から解説や講評を行う。		
授業時間外学修	予習 (各授業回約 30 分)、復習 (各授業回約 30 分)。 まとめに向けて、各授業のノート、配布資料等を整理し、授業を振り返り、本学での学びについて考える。(約 10 時間)		
備考	*担当教員の一部が、実務経験のある教員による授業科目である。 荒木は、介護老人福祉施設で 11 年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。 松田は、病院、公的機関で 9 年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。 柏倉は、公立中学校にて 12 年間教諭として業務に従事した実務経験を持つ。		
連絡先 (質問等)	各教員が、授業前後に、教室で質問を受け付ける。 または、高橋 (担当教員代表) が質問等を受け付け、該当教員から回答する。		

授業科目	倫理学		授業形態	講義	単位数	2 単位	
担当者	平田俊博						
ナンバリング	E11L102	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:選択必修 主事任用:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	保育者や介護者として必要な倫理力について、現代の時代状況に対応しながら講義する。いま世界はコロナ・パンデミックに直面して、デジタル革命が急速に進行し、社会観も人間観も倫理観も激変を迫られている。デジタル倫理観について、最新のビデオ教材や新聞を参考にしながら、皆で意見を交換する。レポートにまとめたりして、他者との違いを認識し、各自が自分の意見を固め表現できるようにする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の倫理観と倫理的実践力について、幼児の発達観と時代の変化に即して理解し、説明できる。 ・デジタル革命による急激な変化に対応できる倫理的実践力を身につけ、保育・介護に役立てる。 ・自分と他人の違いを認識して、倫理的実践力を養い、互いに協調し協力できる保育・介護者になる。 ・「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」を育成する。 						
授業計画	第1回	テーマ	デジタル倫理とは何か? ～個人倫理と社会倫理～				
		内容	ウイズ・コロナ時代の倫理について、意見を交換しよう。NIE(新聞を教育に)				
		授業時間外学修	予習: シラバスを熟読する。 復習: ビデオ『コロナと感受性期』・『コロナと免疫』についてレポートを書く。				
	第2回	テーマ	デジタル倫理学とは何か? ～法学と社会学と倫理学～				
		内容	個人の良心と決断に立脚する、個人主義的な近代倫理の問題点を考えてみよう。NIE				
	第3回	授業時間外学修	予習: コロナ予防のためのマスクや手指衛生について、各自の体験を整理する。 復習: ビデオ『地球温暖化』・『コロナと3蜜—無症状感染—』のレポート。				
		テーマ	デジタル革命とは何か? ～紙の文化からケータイ文化へ～				
	第4回	内容	スマートフォンなどの爆発的浸透によって、社会環境、家庭環境、学校環境等が一変した。ケータイ機器とどう付き合うかが、デジタル社会の最重要課題となる。NIE				
		授業時間外学修	予習: 自分のスマートフォンの使い方を発表できるように整理しておく。 復習: ビデオ『進行性近視と乳幼児斜視』についてレポートを書く。				
	第5回	テーマ	デジタル保育とは何か? ～系統発生的な人類進化観と個体発生的な発達観～				
		内容	胎児期から保育期の子育ての決定的重要性を深く理解しよう。 NIE				
	第5回	授業時間外学修	予習: 特別支援教育に関する各自の思い出を整理しておこう。 復習: ビデオ『生殖異変～劣化する精子と卵子～』についてレポートを書く。				
		テーマ	メディア漬けとは何か? ～生命感覚・身体感覚の劣化～				
	第5回	内容	室内で体を動かさず言葉を発することもなく、ひたすら孤独に電子映像メディアと				

	回		向き合って過ごす子どもたちの、日常生活の危険を理解しよう。
	授業時間外 学修		予習：ここ一年来の電子映像メディアへの各自の接触時間を、振り返ろう。NIE 復習：ビデオ『ゲーム障害』についてレポートを書く。
第 6 回	テーマ		デジタル生活とメディア漬けの進行 ～人類史上初めての人体実験～
	内容		電子映像メディアへの接触時間の増大が、体幹筋力と自律神経の成長に、どのように影響するかを、自分の体で実感しよう。 NIE
	授業時間外 学修		予習：視力、聴力、背筋力、血圧、体温調節等について、各自の現状を調べる。 復習：ビデオ『韓国ネット依存治療』についてレポートを書く。
第 7 回	テーマ		メディア漬けと社会性；中間試験 ～コミュニケーション能力の未発達～
	内容		言葉を使わないで、噛みつく、引っ掻く、体当たり、奇声などで感情を表現し、暴力行為に走りやすい子供たちに、どう対応できるかを考えよう。 NIE
	授業時間外 学修		予習：理解の程度を確認するために中間試験を実施するので、総復習しておく。 復習：ビデオ『若者のゲーム依存』『サル化する人間』についてレポートを書く。
第 8 回	テーマ		メディア漬けと大脳異変 ～意志のコントロールができない～
	内容		乳幼児期からの長時間のメディア接触が、前頭葉とか線条体など脳の基幹部にも影響を及ぼし、人格形成に悪影響をもたらす。 NIE
	授業時間外 学修		予習：長時間のメディアに接触により、自己制御ができなかった体験を考える。 復習：ビデオ『ひきこもりと発達障害』についてレポートを書く。
第 9 回	テーマ		ウイズ・コロナ時代のデジタル社会～外出自粛とテレワーク～
	内容		外出自粛要請が長期化する中、電子映像メディアへの接触時間が一段と長くなりつつある。メディア漬けの子育てによる軽度発達障がい急増が危惧されている。NIE
	授業時間外 学修		予習：軽度発達障がいの親や子どもたちとの交流体験を語り合おう。 復習：ビデオ『外出自粛でゲーム依存』についてレポートを書く。
第 10 回	テーマ		世代間倫理とは何か？ ～メディア中毒で育った親と子～
	内容		世代間でさらに悪化する劣化の連鎖が社会的格差の拡大につながり、日本社会の平安を脅かすことを説明する。 NIE
	授業時間外 学修		予習：家庭倫理と世代間倫理について、皆で意見を出し合おう。 復習：ビデオ『虐待入院・育児放棄』についてレポートを書く。
第 11 回	テーマ		メディア中毒とモンスターペアレント ～外面（そとづら）と内面（うちづら）～
	内容		自己の感情を制御できないメディア中毒の親が多数いることを理解し、家庭内虐待や虐待死の急増に現れていることを説明する。 NIE
	授業時間外 学修		予習：メディア中毒と家庭内虐待について、自分の考えを整理しよう 復習：ビデオ『虐待する親』『子供の虐待』についてレポートを書く。
第 12 回	テーマ		家庭倫理とは何か？ ～家庭内暴力と家族崩壊～
	内容		メディア漬けで育った多面的な発達不全の世代が、いま親となり子育てを始めつつある。大脳異変の親たちを支援する、新しい家庭倫理について説明する。 NIE
	授業時間外 学修		予習：大脳異変と思われる大人や親たちを見たことがありますか？ 復習：ビデオ『DV 家庭』『未成年の性被害』についてレポートを書く。
第	テーマ		愛着障害とは何か？ ～メディア依存症と親子の愛着形成～

	13回	内容	赤ちゃんとのアイコンタクトがないネトゲ未亡人の母親の行動が、親子の愛着形成を決定的に拒んでいる現状を学ぶ。 NIE
		授業時間外学修	予習：配布資料で、「親子の愛着形成」について、読んでおこう。 復習：ビデオ『少年犯罪・虐待・愛着障害』についてレポートを書く。
	第14回	テーマ	デジタル社会のデジタル倫理 ～自分の人生のデザイン～
		内容	自分のデジタル社会倫理観について発表し、互いに意見を交換する。どうすれば友人や恋人を作り、就職し、結婚して、自分の家庭を築き上げることができるかを考えよう。 NIE
		授業時間外学修	予習：自分の生き方や人生観について、自分なりに考えておこう。 復習：ビデオ『改名・キラキラネーム』についてレポートを書く。
	第15回	テーマ	デジタル時代における保育と介護 ～コロナに負けないために～
		内容	これまでの授業を総括して倫理的な観点から各人の保育・介護観を語り合い、相互の理解を深めよう。日本のいじめと同調圧力。定期試験の問題を発表する。 NIE
		授業時間外学修	予習：定期試験の準備をしよう。 復習：ビデオ『日本のいじめ—道徳教育—』についてレポートを書く。
		第16回	定期試験
	教科書・テキスト	資料で配布：清川輝基・内海裕美著「メディア漬け」で壊れる子どもたち少年写真新聞社、2009年	
参考書・参考資料等	授業中に適宜、NIE（新聞を教育に）資料を配布する。電子辞書、国語辞典のどれか1冊用意。		
成績評価の方法・基準	<p>方法：期末試験：60% 授業内試験：10% 授業内提出物：20% 授業内活動：10%</p> <p>※各領域理解の程度（55%）、「コミュニケーション能力」（2）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）で評価する。</p> <p>基準：①保育者の倫理観と倫理的実践力について、幼児の発達観と時代の変化に即して理解し、説明できる。②デジタル革命による家庭環境の急激な変化に対応できる倫理的実践力を身につけ、保育・介護に役立てる。③自分と他人の違いを認識して、互いに協調し協力できる保育・介護者になる。</p> <p>①～③の合計で60点以上の点数を獲得すること。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	授業中に実施する小テストやレポートについては、後の授業回にて解説を行う。回収したレポートについては、返却時に添削と口頭コメント、ならびに全体に対する講評を行う。模範となる優秀レポートを皆の前で、著者がプレゼンテーションし、質疑応答の司会をする。		
授業時間外学修	毎回の授業内容を把握しておくことを前提に講義を進めるので、必ずシラバスとテキストに事前に目を通して授業に臨むこと（毎回約2時間）。配布資料で指定した箇所を事前に予習しておくこと（毎回約1時間）。毎回の講義内容を復習し、課題のレポートを作成（4回以上提出）して、確実に理解しておくこと（合計で15時間）。定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する（約12時間）。定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める（約3時間）。		
備考	ビデオやNIE（新聞を教育に）を活用するので、授業計画に少し変更がある場合もある。		
連絡先（質問等）	Mail: thirata@taupe.plala.or.jp 授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	文学		授業形態	講義	単位数	2	単位		
担当者	柏倉弘和								
ナンバリング	E11L103	開講時期	1年次後期	授業時間数	30	時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。								
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。								
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。								
授業の概要・方法	文学作品を読んだり、歌を聴いて歌詞について考えたりする。文学作品を原作にした映画の鑑賞と並行して原作を読み進めることも試みる。感じたり想像したりしながら、作品の世界に浸り、味わっていく。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に即して読む力を身につける。 ・表現を味わい、想像する力を磨く。 ・様々な作品に触れて、人間・社会・人生等についての考えを深めることができる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。 								
授業計画	第1回	テーマ	文学について						
		内容	リアリティや描写等、文学の重要な特質について学ぶ。						
		授業時間外学修	予習: シラバスを熟読する。 復習: 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
	第2回	テーマ	「よだかの星」を読む。						
		内容	「よだかの星」を読み、生きることについて考える。						
		授業時間外学修	予習: 前時に配付された「よだかの星」を読んでおく。 復習: 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。						
	第3回	テーマ	「どんぐりと山猫」を読む。						
		内容	「どんぐりと山猫」を読み、特徴を捉え、描写を味わう。						
		授業時間外学修	予習: 前時に配付された「どんぐりと山猫」を読んでおく。 復習: 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。						
	第4回	テーマ	「虔十公園林」を読む。						
		内容	「虔十公園林」を読んで、自分の生活について考える。						
		授業時間外学修	予習: 前時に配付された「虔十公園林」を読んでおく。 復習: 宮沢賢治の他の作品を読んでみる。						
	第5回	テーマ	歌詞について						
		内容	歌を聴いて歌詞について考える。						
		授業時間外学修	予習: 好きな歌の歌詞に注目して聴いてみる。 復習: 授業内容を振り返りながら、もう一度歌を聴いてみる。						

第 6 回	テーマ	文学作品の文体について
	内 容	谷崎潤一郎の「春琴抄」を読み、独特の文体に慣れる。
第 7 回	授業時間外学修	予習： 前時に配付された「春琴抄」の1枚目を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。
	テーマ	文学作品のストーリーについて
第 8 回	内 容	「春琴抄」を読み、あらすじを捉える。
	授業時間外学修	予習： 前時に配付された「春琴抄」の2枚目を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。
第 9 回	テーマ	文学作品の登場人物について
	内 容	「春琴抄」を読み、春琴と佐助の関係について考える。
第 10 回	授業時間外学修	予習： 前時に配付された「春琴抄」の3、4枚目を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。
	テーマ	小説と映画
第 11 回	内 容	映画「春琴抄」の前半を観て、ストーリーを捉える。
	授業時間外学修	予習： 谷崎潤一郎について調べる。 復習： 映画と比べながらもう一度「春琴抄」の4枚目まで読む。
第 12 回	テーマ	文学作品の登場人物の関係
	内 容	「春琴抄」を読み、春琴と佐助の関係の変化について考える。
第 13 回	授業時間外学修	予習： 前時に配付された「春琴抄」の5、6枚目を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。
	テーマ	小説と映画の違い
第 14 回	内 容	映画「春琴抄」の中盤を観て、春琴と佐助の関係を捉える。
	授業時間外学修	予習： 恋愛について考えをまとめておく。 復習： 映画と比べながらもう一度「春琴抄」の6枚目まで読む。
第 15 回	テーマ	文学作品の登場人物の行動と心理
	内 容	「春琴抄」を読み、佐助の行動と春琴の反応について考える。
第 16 回	授業時間外学修	予習： 前時に配付された「春琴抄」の7、8枚目を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。
	テーマ	文学と映画の共通点
第 17 回	内 容	映画「春琴抄」を最後まで観て、佐助の心境について考える。
	授業時間外学修	予習： これまでの授業内容を振り返る。 復習： 谷崎潤一郎の他の作品を読んでみる。
第 18 回	テーマ	文学と映画
	内 容	「春琴抄」と映画「春琴抄」を比較し、違いについて考える。
第 19 回	授業時間外学修	予習： 映画「春琴抄」を観て感じたことをまとめておく。 復習： 小説を映画化した作品について調べてみる。
	テーマ	まとめ
第 20 回	内 容	これまでの授業内容を振り返り、改めて描写について理解し、味わう。
	授業時間外学修	予習： これまでの授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。

		復習： 疑問点について既習内容を確認する。
	第 16 回	定期試験
教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配付する。	
参考書・参考資料等	新しい文学のために（大江健三郎著 岩波書店）	
成績評価の方法・基準	定期試験と毎回の授業後に提出する小レポートにより、作品の理解・鑑賞の程度（55%）、「コミュニケーション能力」（1）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された小レポートについては、次回の授業において解説する。定期試験については、採点后講評する。	
授業時間外学修	<p>予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。授業中の資料や返却された小レポートを見直し、既習内容を確認するとともに次回の授業内容との関わりを理解する。（約 45 時間）</p> <p>定期試験の結果を踏まえ、自己評価するとともに既習内容の理解を深める。（約 1 時間）</p>	
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>担当教員は、公立中学校にて 12 年間教諭として業務に従事した実務経験を持つ。中学校教諭としての実務経験を活かして、文学について具体的な事例を挙げながら授業を行う。</p>	
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー 金曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。</p>	

授業科目	日本国憲法		授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	高木統一						
ナンバリング	E12L104	開講時期	2年次前期	授業時間数	30	時間	授業回数 15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配付資料（レジメ、資料）を用いて、憲法の歴史や政治の仕組み、人権保障に関する問題を中心に、日本国憲法の基本原理を学ぶ。この授業では、主権者の目から現実社会を見る習慣を身につけることを通してこの課題の達成を目指したい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基本理念、仕組み、内容を理解する。 ・特に、国民主権の原理の内容について、選挙制度、直接参加、地方自治等具体的に理解する。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現実をしっかりとらえることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	近代立憲主義とは				
		内容	近代立憲主義の歴史を学ぶことを通して立憲主義の本質を理解する。				
		授業時間外学修	予習： レジメ、資料、教科書（5～9頁）を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。				
	第2回	テーマ	国民主権1—明治憲法の基本原理と内容				
		内容	明治憲法の成立の歴史と基本原理を学ぶことを通して明治憲法が外観的立憲主義といわれる意味を理解する。				
		授業時間外学修	予習： レジメ、資料（大日本帝国憲法の条文）、教科書（41～69頁）を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。				
	第3回	テーマ	国民主権2—日本国憲法における国民主権原理の内容（その1）				
		内容	①象徴天皇制の意味と内容 ②国民主権の意味 ③国政の運用方式—三権分立、議院内閣制				
		授業時間外学修	予習： レジメ、資料、教科書（152～156頁、185～217頁、225～228頁）を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。				
	第4回	テーマ	国民主権3—日本国憲法における国民主権原理の内容（その2）				
		内容	①財政民主主義—税金の種類、租税の基本原則（累進課税方式） ②地方自治—地方自治の本旨とは、地方公共団体の種類、条例とは				

	授業時間外学修	<p>予習： レジメ、資料、教科書（181頁、217～225頁、257～261頁）を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと。</p> <p>復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。</p>
第5回	テーマ	選挙制度と民主主義—その1
	内容	<p>①日本の選挙制度、外国の選挙制度</p> <p>②小選挙区制度と比例代表制</p>
	授業時間外学修	<p>予習： レジメ、資料、教科書（251～256頁、188～195頁）を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと</p> <p>復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。</p>
第6回	テーマ	選挙制度と民主主義—その2
	内容	<p>①選挙活動の自由</p> <p>②投票価値の平等</p> <p>③立候補の自由—供託金制度</p>
	授業時間外学修	<p>予習： レジメ、資料、教科書を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと。</p> <p>復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。</p>
第7回	テーマ	民主主義の形態—直接民主主義と間接民主主義
	内容	<p>①直接民主主義の形態、日本国憲法における直接民主主義</p> <p>②地方自治法における直接民主主義</p>
	授業時間外学修	<p>予習： レジメ、資料、教科書（185～188頁）を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと。</p> <p>復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。</p>
第8回	テーマ	基本的人権—その1
	内容	<p>①一般原則と基本的人権の種類（自由権と社会権）</p> <p>②自由権の内容（平等権、精神的自由権、経済的自由権、人身の自由）</p>
	授業時間外学修	<p>予習： レジメ、資料、教科書（126～148頁、165～181頁）を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと。</p> <p>復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。</p>
第9回	テーマ	基本的人権—その2
	内容	<p>①人身の自由（自白の証拠能力、死刑存廃論）</p> <p>②社会権（生存権、労働権、団結権）</p>
	授業時間外学修	<p>予習： レジメ、資料、教科書（164～179頁、140～148頁）を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと</p> <p>復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。</p>
第10回	テーマ	国民の司法参加と裁判員制度
	内容	<p>①裁判員制度の目的、内容</p> <p>②裁判員制度の運用と問題点・課題</p>
	授業時間外学修	<p>予習： レジメ、資料、教科書を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと</p> <p>復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。</p>
第	テーマ	平和主義—その1（憲法9条の誕生と自衛隊の設置、安保条約）

	11 回	内 容	①日本国憲法の誕生 ②サンフランシスコ講和条約と日米安保条約 ③自衛隊の設置
		授業時間外 学修	予習： レジメ、資料、教科書を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。
	第 12 回	テーマ	平和主義—その2（自衛隊の合憲性と解釈改憲）
		内容	政府の解釈（自衛目的、必要最小限の実力の保持）
		授業時間外 学修	予習： レジメ、資料、教科書（110～125頁、229～270頁）を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。
	第 13 回	テーマ	平和主義—その3
		内 容	①平和安全法制と集団的自衛権 ②憲法改正と憲法9条
		授業時間外 学修	予習： レジメ、資料、教科書を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。
	第 14 回	テーマ	VTR「日本国憲法の誕生」を視聴し、レポートを提出する。
		内 容	日本国憲法の誕生について理解する。
		授業時間外 学修	予習： レジメ、資料、教科書を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと。 復習： 視聴したVTRのメモを整理し、レポートの提出に向け学習を深める。
	第 15 回	テーマ	憲法改正と国民投票
		内 容	憲法改正の手續と国民投票法の内容・問題点
		授業時間外 学修	予習： レジメ、資料、教科書を読んで、問題意識を持って授業に臨むこと。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をノートにまとめる。
		第16回	定期試験
	教科書・テキスト	憲法読本 第四版 岩波ジュニア新書（杉原康雄 岩波書店）	
参考書・参考資料等	授業の際、適宜指示する。		
成績評価の方法・基準	筆記試験及びレポート、授業中に行う小テスト及び課題により、専門的理解の程度（60%）、「自分で考え、実践できる能力」（1）獲得の程度（30%）、授業参加度（10%）で評価する。また、小テスト及び課題については、その都度講評を行う。		
課題に対するフィードバックの方法	授業中に提出されたレポートないし答案については、次回の授業にて解説する。		
授業時間外学修	予習（1時間）、復習（1時間）として、授業計画で示された内容について行う。 定期試験に向けて教科書やレジメ、資料、授業ノートを見直し、既習内容を再確認する。		
備 考	-		
連絡先（質問等）	授業後に適宜質問を受け付ける。		

授業科目	経済学		授業形態	講義	単位数	2	単位		
担当者	下平裕之								
ナンバリング	E11L105	開講時期	1年次前期	授業時間数	30	時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:選択必修 主事任用:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない			
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。								
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。								
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。								
授業の概要・方法	配布資料を用いて、社会で必要となる経済に関する基礎的知識と、経済現象を理解するための初歩的な経済学を学ぶ。また映像資料等を用いて、社会と経済との関係性についての理解を深める。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・景気や雇用の循環的変動を考えるために必要な、国民経済に関する経済学を身につける。 ・社会福祉と国・地方自治体の財政との関係、社会福祉の財源とその配分方法について理解し、説明ができる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。 								
授業計画	第1回	テーマ	イントロダクション						
		内容	授業の全体概要を説明し、経済社会に関する基礎知識を学ぶ。						
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
	第2回	テーマ	好景気・不景気と何か						
		内容	景気判断の指標とその意味を学ぶ。						
	第3回	授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
		テーマ	国内総生産とは何か						
	第4回	内容	経済活動の動向を測る基本概念である、国内総生産について学ぶ。						
		授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
	第5回	テーマ	経済成長率						
		内容	国民経済の動向を測る、経済成長率とその計算方法を学ぶ。						
	第5回	授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
		テーマ	国内所得とは何か						
	第5回	内容	各経済主体の所得の総計としての、国内所得を学ぶ。						
		授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。						

	学修	新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第6回	テーマ	国内総支出とは何か
	内容	国内総支出の定義とその意味を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第7回	テーマ	国内総支出とその内訳
	内容	国内総生産の動向を考えるために必要な、国内総支出の内訳を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第8回	テーマ	経済循環のメカニズム
	内容	経済における生産、所得、支出の循環の仕組みを学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第9回	テーマ	どうすれば景気が良くなるのか
	内容	景気にかかわる諸問題と、その対策について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第10回	テーマ	中間試験
	内容	これまでの学習内容に関する試験を行う。
	授業時間外学修	予習： これまでの学習の内容を整理・理解しておく。 復習： 試験問題と関連した授業内容を確認する。
第11回	テーマ	福祉の財政
	内容	社会福祉の財源調達と支出の種類、内容について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第12回	テーマ	日本の社会保障・税制の仕組み
	内容	日本の社会保障制度とそれを支える税制について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第13回	テーマ	福祉財源の調達方法
	内容	租税、社会保障などの多様な福祉財源の調達方法について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。

	学修	新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 14 回	テーマ	経済成長と社会福祉
	内容	経済成長と社会福祉財源との関係、課題等について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 15 回	テーマ	全体のまとめ
	内容	これまでの授業の内容をまとめ、経済と福祉にかかわる全体像を確認する。
	授業時間外 学修	予習： 復習シートに正確に解答できるよう、前回の授業の内容を整理・理解する。 新聞・テレビ等の経済に関する報道に関心を持つ。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
教科書・テキスト	授業時にプリント資料を配布する。	
参考書・参考資料等	キッチリわかる 経済のしくみ (山下景秋 経営実務出版) もっと知りたい税のこと (財務省)	
成績評価の 方法・基準	毎回の復習シートの提出と中間試験・期末レポートにより、専門的理解の程度 (60%)、「コミュニケーション能力」(1) 獲得の程度 (30%)、授業参加度 (10%) で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法	毎回の復習シートについては、授業中に解説する。中間試験・期末レポートについては採点后講評する。	
授業時間外学修	予習 (各授業回約 30 分)、復習 (各授業回約 30 分) として、授業計画で示された内容を実施する。その他、毎回の授業の予習・復習 (50 時間) 復習カード、中間試験、期末レポートの準備・復習等 (10 時間)	
備考	—	
連絡先 (質問等)	授業前後に教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	総合科目		授業形態	講義	単位数	2	単位		
担当者	渡邊洋一								
ナンバリング	E11L106	開講時期	1年次後期	授業時間数	30	時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当しない		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。								
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。								
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。								
授業の概要・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育・保育・福祉の現場では、チームワークが重要である。誤解のないコミュニケーションをするためにも、個人の経験のみに頼らず、科学的な思考法・判断・説明が必要である。 ・この授業では、人間の行動を総合的・科学的に考えるために、講義のほか実験やディスカッションをまじえて学ぶ。 ・実験の結果や個人の意見を聴取する際に、Eメールによる回答を求める場合がある。メールアドレス等、Eメールの使用法については授業中に説明する。 								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で起きる事柄について、科学的に考え、それを人に説明できるようになる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活・社会についての知識・理解」を修得する。 								
授業計画	第1回	テーマ	保育と科学						
		内容	保育や福祉の現場での課題解決における科学的思考の重要性に気づく。						
		授業時間外学修	予習： 保育や福祉に関して具体的に疑問に思っている点を書き出しておく 復習： 自分の考えた具体例に対して科学的に検討できているか考えてみる。						
	第2回	テーマ	科学とニセ科学						
		内容	「血液型性格論」を題材として、科学的思考の基本を考える。						
	第3回	授業時間外学修	予習： 自分自身の「性格」について考えて特徴を書き出しておく。 復習： 授業で学んだ知識を使って、あらためて「性格」について考えてみる。						
		テーマ	心の入り口						
	第4回	内容	「感覚過敏」や「色覚異常」を通して、感覚の仕組みを学ぶ。(実験を含む)						
		授業時間外学修	予習： 自分の味覚や嗅覚、音に対する感覚などについて考えてみる。 復習： 下記参考書の感覚の章を読み、感覚の特性について整理する。						
	第5回	テーマ	乳児は母親の顔がわかるか？						
		内容	顔の知覚を通して知覚の特性について学ぶ。(実験を含む)						
	第5回	授業時間外学修	予習： 乳児の発達について知識を確認しておく。 復習： 下記参考書の知覚や感性の章を読み、知覚の特性について整理する。						
		テーマ	注意と不注意						
	第5回	内容	覚醒と選択的注意、ADHD（注意欠陥多動）などについて学ぶ。(実験を含む)						
		授業時間外学修	予習： 不注意だった経験を書き出してみる。						

	学修	復習： 下記参考書の注意の章を読み、注意の特性について整理する。
第6回	テーマ	行動と環境の相互作用
	内容	自動車の運転を例に、実験を通して、環境の中での行動を学ぶ。(実験を含む)
	授業時間外学修	予習： 自分の行動する範囲について、交通事情など状況を確認しておく。 復習： 授業中に紹介された JAF の HP などを参考に交通安全について考える。
第7回	テーマ	「かんしゃく」とは何か
	内容	感情とストレスについて科学的に学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 最近、感情を爆発させた状況を書き出してみる。他人の事例でもよい。 復習： 下記参考書の感情の章を読み、感情の仕組みについて調べる。
第8回	テーマ	物忘れとは何か
	内容	健忘を例に、記憶のしくみについて学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 最近経験した物忘れを書き出してみる。 復習： 下記参考書の記憶の章を読み、記憶の仕組みについて調べる。
第9回	テーマ	思い出とは何か
	内容	メロディの記憶や顔の記憶を例に、長期記憶について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： (とくに老人の) 記憶障害について調べておく。 復習： 下記参考書の記憶の章を読み、日常的な記憶の問題について調べる。
第10回	テーマ	「認知能力」のまとめ
	内容	知能テストを材料に、認知能力とはどのような能力か考えてみる。
	授業時間外学修	予習： 「頭がいい」と思われる人の特徴を書き出しておく。 復習： 授業で学んだ知識を使って、知能とその発達について考えてみる。
第11回	テーマ	社会的認知とは
	内容	対人魅力、対人印象とか何か。実験を通して学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 魅力的だと思える人物(複数)について、その特徴を整理しておく。 復習： 自分の性格について、対人関係からあらためて考えてみる。
第12回	テーマ	個人と集団
	内容	集団圧力、同調とは何か。グループディスカッションを通して考える。
	授業時間外学修	予習： 家庭、クラスなど自分の所属する集団の特徴を書き出しておく。 復習： 自分と集団との関係について、他の人と比較して考えてみる。
第13回	テーマ	非認知能力とは何か? その1
	内容	「意欲」「達成欲求」とは、どのようなものか学ぶ。(実験を含む)
	授業時間外学修	予習： 「やる気」とは何か、考えをまとめておく。 復習： 心理学の関連図書を読み、達成欲求や承認欲求について調べる。
第14回	テーマ	非認知能力とは何か? その2
	内容	「我慢する」とは、どのような能力に関係するのか学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 自制心や忍耐について、調べておく。 復習： 心理学の関連図書を読み、欲求不満耐性などについて調べる。
第15回	テーマ	ふりかえり
	内容	レポートの返却と講評

	回	授業時間外 学修	予習： これまでの授業をふりかえり、疑問点をまとめておく。 復習： 疑問に対する答えを整理しておく。
教科書・テキスト	なし。		
参考書・参考資料等	新・知性と感性の心理（行場次朗・箱田裕司編著 福村出版）：附属図書館にあり。 その他、関連図書は随時紹介する。		
成績評価の方法・基準	毎回の授業後に提出する小レポートと学期末のレポートにより、授業に積極的に参加したか（15%）科学的に考え、それを人に説明できるようになったか（60%）、「コミュニケーション能力」(1)を修得できたか（25%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	小レポートについては翌週の授業で講評し、必要な場合には補足説明をする。学期末レポートは、テーマを11月末に指示し、第13回目の授業終了時に回収する。第15回目のふりかえりの時間に返却し講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業につき約30分）、復習（各授業につき約30分）として、授業計画で示された内容で実施すること。学期末レポートのテーマは11月末に指示するので、授業で配布された資料やノートを参照するとともに、参考書等の資料を読んでレポートを作成する。（約50時間）最後の授業での講評を踏まえて、知識を確実にするとともに、課題を再認識しておく。（約3時間）		
備考	—		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 金曜日 13時00分～14時30分 ほかに随時、Eメールによる質問を受け付ける。Eメールアドレスは授業初回に提示する。		

授業科目	英語コミュニケーション		授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	熊木恒一						
ナンバリング	E11S107	開講時期	1年次 前期・後期	授業時間数	60 時間	授業回数	30 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	保育園や幼稚園での生活の様々な場面で使用される英語表現を学びながら、保育現場において英語で意思の疎通や情報を伝えるための基礎的な力を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で役立つコミュニケーションのための英語を習得することができる。 ・〔前期〕「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。 ・〔後期〕「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	L1. The School Year Begins				
		内容	「やなぎ保育園」の立地や園舎、新学期の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： L1. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	The School Year Begins Listening, Exercises				
		内容	L1の英文内容理解を踏まえて、Exercisesを解く。				
	第3回	授業時間外学修	予習： Exercisesを英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。				
		テーマ	L2. Arrival				
	第4回	内容	園児の登園や自由遊びの様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： L2. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	Arrival Listening, Exercises				
		内容	L2の英文内容理解を踏まえて、Exercisesを解く。				
	第5回	授業時間外学修	予習： Exercisesを英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。				
		テーマ	L3. Playtime in the Classroom				
	内容	園児の教室での遊び時間の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる					

	回		英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修		予習： L3. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 6 回	テーマ		Playtime in the classroom Listening, Exercises
	内容		L3 の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修		予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 7 回	テーマ		L4. In the Sandbox
	内容		園児の砂場での遊びの様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修		予習： L4. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 8 回	テーマ		In the Sandbox Listening, Exercises
	内容		L4. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修		予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ		L5. In the Playground
	内容		園児の園庭での遊びの様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修		予習： L5. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 10 回	テーマ		In the Playground Listening, Exercises
	内容		L5. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修		予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 11 回	テーマ		L6. Lunchtime
	内容		園児の昼食時間の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修		予習： L6. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 12 回	テーマ		Lunchtime Listening, Exercises
	内容		L6. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修		予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 13 回	テーマ		L7. Changing Clothes and Story Time
	内容		園児のお昼寝前の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修		予習： L7. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。

第 14 回	テーマ	Changing Clothes and Story Time Listening, Exercises
	内容	L7. の英文内容理解を踏まえて、Exercisesを解く。
	授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 15 回	テーマ	L8. Nap Time
	内容	園児のお昼寝の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ
	授業時間外 学修	予習： L8. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 16 回	テーマ	Nap Time Listening, Exercises
	内容	L8. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 17 回	テーマ	L9. Blowing Bubbles
	内容	園児の園庭でのシャボン玉遊びの様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： L9. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 18 回	テーマ	Blowing Bubbles Listening, Exercises
	内容	L9. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 19 回	テーマ	L10. A Sick Child
	内容	高熱が出た園児の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： L10. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 20 回	テーマ	A Sick Child Listening, Exercises
	内容	L10. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 21 回	テーマ	L11. Preparation for the Sports Day
	内容	英文の運動会案内状を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： L11. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 22 回	テーマ	Preparation for the Sports Day Listening, Exercises
	内容	L11. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。

第 23 回	テーマ	L12. The Sports Day
	内 容	やなぎ保育園での運動会の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： L12. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 24 回	テーマ	The Sports Day Listening, Exercises
	内 容	L12. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 25 回	テーマ	L13. Going for a Walk
	内 容	園児のお散歩の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： L13. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 26 回	テーマ	Going for a Walk Listening, Exercises
	内 容	L13. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 27 回	テーマ	L14. Discovering Autumn
	内 容	園児のお散歩途中で出会った秋の風景が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： L14. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 28 回	テーマ	Discovering Autumn Listening, Exercises
	内 容	L14. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 29 回	テーマ	L15. Drawing & Letter Writing
	内 容	英文の手紙の書き方を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： L15. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 30 回	テーマ	Drawing & Letter Writing Listening, Exercises
	内 容	L15. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
	授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
第 31 回	筆記試験 ※前期末にも、筆記試験を行う。	
教科書・テキスト	新 保育の英語 (三修社)	
参考書・参考資料等	なし。	
成績評価の	授業毎の発表と筆記試験により、授業参加度 (20%)、専門的理解の程度 (60%)、「コミュニケーション	

方法・基準	能力「〔前期〕(1)・〔後期〕(3) 獲得の程度 (20%)」で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	授業毎の発表後および試験後に講評をする。
授業時間外学修	予習 (各授業回約 30 分)、復習 (各授業回約 30 分) として、授業計画で示された内容を実施する。 授業内の発表を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 2 時間)
備考	授業毎の発表を課す。
連絡先 (質問等)	授業前後に教室にて質問を受け付ける。

授業科目	体育講義		授業形態	講義	単位数	1	単位		
担当者	高桑秀郎								
ナンバリング	E11L108	開講時期	1年次後期	授業時間数	20	時間	授業回数	10	回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない			
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。								
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。								
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。								
授業の概要・方法	子どもの心身の発育・発達について一般的な傾向と相互影響について検討していく。保育士、幼稚園教諭、保育教諭が子ども達の生活や遊びを適切に支援・指導していく際の考え方やポイントについての理解を進め、保育活動を領域「健康」の観点に立って具体的に計画・展開できる能力を培う。保育実践や映像視聴やグループディスカッションを通じて、適切な保育の進め方についての理解を深める。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発育発達と領域「健康」が目指す指導内容について理解し、説明ができる。 ・領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。 ・子どもの経験と育ちの相関関係に関する理解と指導における観点的説明ができる。 ・授業に適切に参加し、授業内容の理解に努めている。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身に付ける。 								
授業計画	第1回	テーマ	子どもの身体の発育・発達の一般的傾向						
		内容	発育期の子どもの身体の特徴について学ぶ。						
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、これからの学習内容を確認しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
	第2回	テーマ	子どもの発育・発達と運動遊びの関連性						
		内容	発育期の子どもの身体と運動の関係、実施上の留意点について学ぶ。						
	第3回	授業時間外学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
		テーマ	高齢社会と高齢者の身体的特徴						
	第4回	内容	日本人口の高齢化の実情と高齢者の身体的特徴について学ぶ。						
		授業時間外学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
	第5回	テーマ	高齢者と運動						
		内容	老化防止対策としての運動のあり方や実施上の留意点について学ぶ。						
	第6回	授業時間外学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
		テーマ	救急法に関する基礎知識						

	5	内 容	救急法における一般的注意事項について学ぶ。
	回	授業時間外	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。
		学修	復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第6回	テーマ	外傷の応急処置①（開放性の傷の場合）
		内 容	傷口の洗浄や消毒、止血法について学ぶ。
	回	授業時間外	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。
		学修	復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第7回	テーマ	外傷の応急処置②（非開放性の傷の場合）
		内 容	損傷組織の違いによる傷の種類や RICE 処置について学ぶ。
	回	授業時間外	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。
		学修	復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第8回	テーマ	救急蘇生法の手順	
	内 容	JRC 蘇生ガイドラインに基づいた救急蘇生の手順を学ぶ。	
回	授業時間外	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。	
	学修	復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第9回	テーマ	救急蘇生人形を用いた蘇生法の実践	
	内 容	乳児、小児、成人の蘇生人形やトレーニング用 AED を使い、救急蘇生を行う。	
回	授業時間外	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。	
	学修	復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第10回	テーマ	熱中症発生の機序と応急処置	
	内 容	熱中症発生の機序を理解し、防止策、応急処置について学ぶ。	
回	授業時間外	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。	
	学修	復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第11回		定期試験
教科書・テキスト	特定の教科書・テキストは使用しない。		
参考書・参考資料等	厚生の指標増刊 国民衛生の動向（厚生労働統計協会） JRC 蘇生ガイドライン 2015（医学書院）		
成績評価の方法・基準	学期末の筆記試験から、専門的理解の程度（60%）、「コミュニケーション能力（1）獲得の程度（30%）、授業参加度（10%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	定期試験については、採点后、研究室にて個別開示し、指導助言を行う。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回 60 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてノートや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 10 時間） 定期試験の結果を踏まえ、自己評価するとともに、理解が不十分な部分を確認し、既習内容を再度学習し、理解を深める。		
備 考	—		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	体育実技		授業形態	実技	単位数	1	単位		
担当者	高桑秀郎、小田幹雄								
ナンバリング	E11P109	開講時期	1年次通年	授業時間数	40	時間	授業回数	20	回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない			
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。								
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。								
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。								
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							○	
授業の概要・方法	<p>2年次の体育（専門体育）に繋がる導入としての科目になる。</p> <p>前期は様々な運動を経験し、自らの身体を動かして経験することを通じて、自らの情緒を表出すること、他者と経験・情緒を共有することの楽しさを経験していく。</p> <p>後期は自分たち同士で、ゲームを企画・立案・実践を行いながら、指導者の立場、プレイヤーの立場から遊びの展開を経験する。楽しく遊びが展開されるには何が必要かを追及する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・諸ルールを守り、楽しく体を動かす経験を積む。 ・様々な運動種目の経験を通じ、体育の多様性を知り、生涯体育に必要な技能と態度を身に付ける。 ・対象集団の興味、能力を考慮したゲーム遊びの企画を行い、文章化し、ゲーム案として期限まで提出できる。自らの案を基に実践することができる。 ・実践を基に、計画の反省を行い、課題の発見と解決の方向性を文章化する。 ・他の学生が展開する遊びに参加し、参加者の視点から、より良い展開の仕方について考えることができる。 ・〔前期〕「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」を身につける。 ・〔後期〕「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。 								
授業計画	第1回	テーマ	授業の運営と授業内のルール、開講予定日の確認					(担当：高桑・小田)	
		内容	授業運営の方法、参加の仕方など約束事を確認していく						
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：配布物を再読し、提出物の準備を行う。						
	第2回	テーマ	集団で行うゲーム遊び					(担当：高桑)	
		内容	身近な集団で行う運動遊びを体験して、身体を使いながら情緒を素直に表出する。						
	第3回	授業時間外学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った遊びのルールを再確認し、行ってみる。						
		テーマ	遊具を使った遊び					(担当：高桑)	
		内容	フラフープを使った遊びのバリエーションを楽しむ。						
	授業時間外	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。							

		学修	復習：行った遊びのルールを再確認し、行ってみる。
	第4回	テーマ	課題のある手段遊び (担当:高桑)
		内容	プログラムアドベンチャーで用いられる遊びの種類を紹介し、行う。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく 復習：行った遊びのルールを再確認し、行ってみる。
	第5回	テーマ	レクリエーションスポーツ① (担当:高桑)
		内容	ソフトバレーボールのルールの説明、ゲームの実践。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った種目のルールを再確認し、行ってみる。
	第6回	テーマ	レクリエーションスポーツ② (担当:高桑)
		内容	ソフトバレーボールの練習、ゲームの実践
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った種目のルールを再確認し、行ってみる。
	第7回	テーマ	障がい者スポーツの体験 (担当:高桑)
		内容	パラリンピック正式種目を体験する。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った種目のルールを再確認し、行ってみる。
第8回	テーマ	ジムニックボール (担当:高桑)	
	内容	理学療法等で用いられるボールを扱い、実践してみる。	
	授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴を準備して、体調を整えておく。 復習：行った種目のルールを再確認し、行ってみる。	
第9回	テーマ	水遊び① (担当:高桑)	
	内容	屋外で水鉄砲を使って、水遊びの楽しさを学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：身近に転用できるものを探す。	
第10回	テーマ	水遊び① (担当:高桑)	
	内容	たかだま幼稚園園児たちと水遊びをする。	
	授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：子どもたちの様子を振り返る。	
第11回	テーマ	球技① (担当:小田)	
	内容	バドミントンの実践。	
	授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：バドミントンのルールを確認し、行ってみる。	
第12回	テーマ	球技② (担当:小田)	
	内容	卓球の実践。	
	授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：卓球のルールを確認し、行ってみる。	
第13回	テーマ	球技③ (担当:小田)	
	内容	バレーボールの実践。	

	回	授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：バレーボールのルールを再確認し、行ってみる。
	第 14 回	テーマ	球技④ (担当：小田)
		内 容	バスケットボールの実践。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：バスケットボールのルールを確認し、行ってみる。
	第 15 回	テーマ	ニュースポーツ (担当：小田)
		内 容	ニュースポーツの理解と実践。
	授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った活動のルールを確認し、行ってみる。	
	第 16 回	テーマ	ゲーム遊びの紹介・体験。グループ分けと説明 (担当：高桑)
		内 容	20 分程度のゲーム遊びについて展開を交えて 2 つ経験する。発表順番の抽選を行う。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：パートナーとともに配布物を参考に自分たちが行う遊びの計画を立てる。
	第 17 回	テーマ	プレイリーダーとしてのゲームの企画・実践
		内 容	自分たちが企画したゲーム遊びを紹介し、実践する。
		授業時間外 学修	予習：計画を事前に企画、案をまとめて教員に提出。確認してもらい助言を受け、計画の修正を行う。必要なものの準備を行い、シミュレーションを行う。 復習：実践を基に反省を行い、所定の用紙に自分たちの予測と実際、改善点などをまとめ、レポートの作成を行う。
	第 18 回	テーマ	プレイヤーの立場でのゲーム体験①
		内 容	他のグループが企画したゲーム遊びにプレイヤーとして参加する。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：他の人達のゲーム運営や進め方で、参考になる点をまとめておく。
	第 19 回	テーマ	プレイヤーの立場でのゲーム体験②
		内 容	他のグループが企画したゲーム遊びにプレイヤーとして参加する。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：
第 20 回	テーマ	プレイヤーの立場でのゲーム体験③	
	内 容	他のグループが企画したゲーム遊びにプレイヤーとして参加する。	
	授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：他の人達のゲーム運営や進め方で、参考になる点をまとめておく。	
教科書・テキスト	なし。		
参考書・参考資料等	体育ゲーム大事典（東陽出版） よく効くふれあいゲーム（杏林書院）		
成績評価の方法・基準	〔高桑〕 授業における活動と提出物によって授業参加度（30%）、フィードバック能（1）獲得の程度（25%）、専門的理解の程度（45%）で評価する。		

	<p>[小田]</p> <p>授業における活動と提出物によって、授業参加度（30%）、「コミュニケーション能力（4）獲得の程度（30%）、専門的理解の程度（40%）で評価する。</p> <p>高桑、小田それぞれの評価を授業担当回数の比率に応じて合算し、算出する。</p>
<p>課題に対する フィードバックの方法</p>	<p>実践内容については毎時間、授業終了時に講評を行う。</p> <p>ゲーム遊びの企画は実践前に企画書を確認の上、助言指導を行う。</p> <p>ゲームの振り返りについて、担当回終了後に、指導・助言を行い、反省についても講評する。</p>
<p>授業時間外学修</p>	<p>予習（各授業回約5分）、復習（各授業回7分）として、授業計画で示された内容を実施する。</p> <p>ゲームの立案・準備について（30分） ゲームの振り返りについて（30分）</p>
<p>備 考</p>	<p>前期は授業開講曜日により、高桑担当の授業と沼田担当の授業について、順番が入れ違う形となる。</p> <p>16回～20回の授業内容については、学生の発表期日の違いにより内容が前後する。</p>
<p>連絡先（質問等）</p>	<p>高桑：オフィスアワー 水曜日 12時25分～12時50分</p> <p>小田：オフィスアワー 火曜日 12時25分～12時50分</p> <p>その他、授業前後に、体育館にて質問を受け付ける。</p>

授業科目	幼児と健康		授業形態	演習	単位数	1単位	
担当者	小田幹雄						
ナンバリング	E21S110	開講時期	1年次前期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<p>幼児期の基本的な生活習慣と心身の健康に関する内容、運動あそびに関する内容を中心に、心身の調和のとれた発達について理解を深めるとともに、保育活動の一環としての運動あそびの指導ができるように、必要な能力や知識を身につけることを目標とする。授業内容によっては、グループ活動で教材研究、発表等も行う。なお、課題の内容によりスマートフォン等から、Google form への回答を求める場合もある。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成、健康課題や運動発達を説明できる。 ・安全な生活や怪我、病気の予防について説明できる。 ・運動あそびの具体的な環境構成と援助ができる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	ガイダンス・領域「健康」の考え方				
		内容	授業の概要について理解する。 各要領、指針における領域「健康」の目的と目標を理解する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
	第2回	テーマ	領域「健康」のねらいと内容				
		内容	領域「健康」のねらいと内容について理解する。				
		授業時間外学修	予習：各要領、指針の領域「健康」の項目に目を通す。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
	第3回	テーマ	健康の定義と乳幼児期の健康の意義				
		内容	健康の定義を理解し、乳幼児期の健康の意義について考える。				
		授業時間外学修	予習：乳幼児の健康問題に関するニュースや記事に目を通しておく。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
	第4回	テーマ	乳幼児期の体の発達				
		内容	乳幼児期の身体的発達について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：事前に配布された資料に目を通す。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
	第	テーマ	基本的な生活習慣の形成とその意義				

5 回	内 容	規則正しい生活習慣を身につけることが健康にどう寄与するか理解する。
	授業時間外 学修	予習：自分の幼児期の生活習慣について確認しておく。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 6 回	テーマ	幼児期の健康と運動あそび1 — 鬼遊び —
	内 容	鬼ごっこを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
第 7 回	授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	テーマ	幼児期の健康と運動あそび2 — 大型遊具を使った遊び —
第 8 回	内 容	大型遊具を使った遊びを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 9 回	テーマ	幼児期の健康と運動あそび3 — 様々な道具を使った遊び（ボール） —
	内 容	多様なボールを使った遊びを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
第 10 回	授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	テーマ	幼児期の健康と運動あそび4 — 様々な道具を使った遊び（なわ） —
第 11 回	内 容	縄跳びやゴムを使った遊びを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 12 回	テーマ	幼児期の健康と運動あそび5 — 様々な道具を使った遊び（マット） —
	内 容	マット運動を実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
第 13 回	授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	テーマ	安全教育・健康管理の理解
第 14 回	内 容	生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うこと、子どもが自らの体や健康に関心を持ち、心身の機能を高めていく必要性について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：事前に配布された資料に目を通す。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
第 15 回	テーマ	乳幼児期の怪我の特徴と疾病の予防について
	内 容	乳幼児期に多い怪我や病気、その予防や対策について学ぶ。
第 16 回	授業時間外 学修	予習：事前に配布された資料に目を通す。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	テーマ	運動あそびを中心とした具体的な環境構成と援助（指導立案）
第 17 回	内 容	グループ毎、模擬保育の指導案を作成し、教材の確認や事前練習、役割分担等につ

	回		いて話し合いや準備を行う。
	授業時間外 学修		予習：事前配布した指導案を完成させておく。 復習：グループで指導案の内容を共通理解する。
	第 14 回	テーマ	運動あそびを中心とした具体的な環境構成と援助（模擬保育）
		内 容	グループ毎、計画した模擬保育を実践する。
	授業時間外 学修		予習：模擬保育の内容の確認や準備を行う。 復習：模擬保育の実践を振り返り、評価できる点や課題、今後の対応についての内容をまとめ、提出する。
	第 15 回	テーマ	運動あそびを中心とした具体的な環境構成と援助（振り返り）
内 容		模擬保育を体験しての評価点や課題点について記録し、発表する。	
授業時間外 学修		予習：個人及びグループの反省点を共有しておく。 復習：これまでの授業内容を確認し、整理する。	
教科書・テキスト	幼稚園教育要領解説（フレーベル館） 保育所保育指針解説（フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）		
参考書・参考資料等	授業内容に応じて適宜資料を配付する。		
成績評価の 方法・基準	実践活動と課題提出による、領域「健康」の理解と実践力の程度（60%）、「自分で考え、実践できる力」（1）獲得の程度（20%）、授業参加度（20%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業時に提出された課題レポートについては内容を確認後に講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画で示された内容を実施する。 グループ毎の指導案の作成、教材の準備、実践の打ち合わせ及び振り返りの記録とまとめ（約6時間） フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約3時間）		
備 考	体育館での授業の場合は運動に適した服装とシューズを着用すること。 運動に制限がある学生は事前に申告すること。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 火曜日 12時25分～12時50分 その他、授業前後に教室にて質問を受ける。		